

平成 28 年度（第 24 回）日本産業衛生学会専門医資格認定試験について

専門医制度委員会
委員長 岡田邦夫

第 24 回日本産業医衛生学会専門医資格認定試験が平成 28 年 8 月 27 日、28 日の両日、横浜市のオンワード総合研究所にて実施されました。受験者数は 57 名で、旧制度で研修された先生方の最後の試験となりました。来年度からは受験される先生方はすべて新制度において研修された専攻医となることが条件となります。

1. 総評

今回の認定試験において、合格者数は 44 名で、合格率は 77%でした。総合判定で不合格と判定しました受験者の内訳は、筆記 4 名、口頭 8 名、筆記・口頭 1 名の計 13 名でした。

2. 筆記試験

筆記試験は、例年通り、以下の 3 領域からの出題でした。

産業医として備えるべき基本的・標準的知識を問う A 問題
現場での問題解決のために求められる知識、考え方を問う B 問題
現場での総合的な問題解決能力を測る C 問題

結果は、最高点は 86 点 最低点は 54 点 で、領域別の平均点は、
A 問題 29.2 点 B 問題 20.2 点 C 問題 19.9 点 でした。

なお、旧制度の登録者 22 名の先生方につきましては、17 名が合格され、合格率 77%でした。

3. 口頭試験

口頭試験も例年通りの問題構成で、以下の 3 領域からの出題でした。

基礎知識を問う A1 問題
与えられたテーマについての問題解決能力を問う A2 問題
産業医の専門的立場から説明する能力を問う B 問題

結果は、57 名中 48 名合格し、合格率 84%でした。

4. 講評

産業医の専門性が問われる社会的要請が強くなっており、守備範囲も拡大しつつあるなか、その専門知識の習得と実践的スキルの習得は今後ともますます必要となってくるものと思われます。

筆記試験については、「産業医の職務 Q&A」からの出題が基本となり、基礎的な考えか

たの理解と、各論の深掘した知識が求められます。最高点と最低点の格差が大きいことは、一方では産業医の知識の格差が大きいことが想定されます。

口頭試験については、総論的には理解がなされていると評価されましたが、各論的内容については回答が不十分で、断片的な知識で終始し、系統的な説明がなされず、結果として、合格ラインぎりぎり合格した受験者が多く認められ、今後さらに各論的な知識レベルを深めと実務経験レベルを向上させる必要が認められました。

研修手帳をもとに面接試験を実施しましたが、研修手帳に不備があり、体裁を整えることが目的ではないので、具体的な記載をしっかりとすることが求められます。

また、日ごろから担当事業場の課題を整理して、関係者にわかりやすく説明するための研鑽する必要があります

専門医に合格されまして先生方の今後のご活躍を祈念しつつ、講評とさせていただきます。

[筆記試験]

旧制度での研修者 22 名が受験しました。

問題は、例年どおり、A 問題、B 問題および C 問題で構成しました。

A 問題は、産業医（専門医）として必要な産業保健全般にかかわる基本的・標準的知識を評価する目的で、○×形式 20 問、四肢択一形式 10 問、穴埋め方式 10 問の計 40 問を出題しました。配点は、各問 1 点で、A 問題全体では 40 点満点としました。平均点は、29.2 点（最高点 38 点、最低点 22 点）でした。

B 問題は、産業医活動を展開していく上で、現場での問題解決のために求められる知識、考え方を評価することを目的に出題しました。2 問ずつ 3 つのカテゴリーに分けた計 6 問を用意し、各カテゴリーから 1 問ずつ選択し、計 3 問について 200 字程度の論述形式で回答するように求めました。各カテゴリー 10 点の配点で、B 問題全体で 30 点満点としました。平均得点は 20.3 点（最高点 28 点、最低点 11 点）でした。

C 問題は、産業医としての現場での総合的な問題解決能力を測ることを狙いとして出題しました。B 問題と同様に、2 問ずつ 3 つのカテゴリーに分けた計 6 問を用意し、各カテゴリーから 1 問ずつ選択し、計 3 問について 300 字程度の論述形式で回答するように求めました。各カテゴリー 10 点の配点で、C 問題全体で 30 点満点としました。平均点は 19.8 点（最高点 23 点、最低点 14 点）でした。

合計得点の平均は 69.4 点（最高点 86 点、最低点 54 点）で、60 点以上を合格とし、17 名が合格（合格率 77.3%）となりました。

全体の所感としては、基本的・標準的な知識は有しているものの、それらを組み合わせるなどして活用し、現場の問題を解決していく手順を明確に示すことができなかつた受験者が散見されました。

合格者にも、今後のますますの自己研鑽を望みたいと思います。

A1. 以下の文章が正しければ○を、誤りであれば×を解答欄に記入しなさい。

A101. 事務所衛生基準規則の室内空気環境基準では、一酸化炭素濃度は 50 ppm 以下とすることとされている。

A102. 雇入時健康診断において、40 歳未満であれば、貧血検査、肝機能検査、血中脂質検査、血糖検査を省略できる。

A103. 定期健康診断の結果で、有所見率が一番高い項目は、血中脂質検査である。

A104. 労働衛生教育には、労働安全衛生規則でその実施が定められているものがある。

A105. 硫化水素は、同体積の空気より重い。

A106. 長時間労働による健康障害の防止を図るための対策の樹立に関することは、衛生委員会の調査審議事項に含まれない。

A107. 労働基準法により、1日の労働時間が8時間を超える場合においては、少なくとも1時間の休憩時間を労働時間の途中に与える必要がある。

A108. 特定化学物質障害予防規則におけるエチルベンゼンに関する規制の適用は、屋内塗装業務に限る。

A109. 精神障害の労災認定において、アルコール依存の状況は、心理的負荷の程度を評価する要因とされる。

A110. 有害物質による労働者の健康障害防止に関わる事業者の安全配慮義務は、当該事業者の管理する事業場の構内で働く派遣労働者に対しても適用される。

A111. トルエンの作業環境測定結果が第 3 管理区分となったので、女性労働者の就業が禁止された。

A112. 特定化学物質障害予防規則に基づくニッケル化合物取扱い作業者の一次健康診断では、作業条件の簡易な調査を行う。

A113. 産業医は、長時間労働者の面接指導にあたって、労働時間、深夜業の情報について事業者から情報提供を受ける必要がある。

A114. 衛生委員会の議事録は、5 年間保管しなければならない。

A115. 自然換気が不十分な場所におけるはんだ付けの業務に従事する者の鉛健康診断は、1 年に 1 回である。

A116. 労働者が私傷病により就業できない場合に休業することができる制度は、労働基準法に定められている。

A117. 事業者の安全配慮義務は、労働契約法に定められている。

A118. 第 12 次労働災害防止計画では、平成 29 年までに、労働災害による死亡者数、死傷者数(休業 4 日以上)をそれぞれ 25%以上減少することを目標としている。

A119. 有機溶剤作業主任者は、研究業務でも選任義務がある。

A120. 厚生労働省が実施している「労働者健康状況調査」の結果では、仕事や職業生活に関する強い不安、悩み、ストレスを感じている労働者の割合は、これまで一度も 65%を超えていない。

A2. 選択肢の中から正解を1つ選び、その数字を解答欄に記入しなさい。

A201. 有機溶剤と尿中の代謝物の組み合わせで誤っているのはどれか。

1. トルエン …… 馬尿酸
2. キシレン …… エチル馬尿酸
3. スチレン …… マンデル酸
4. ノルマルヘキサン …… 2,5-ヘキサンジオン

A202. 常時 500 人以上の労働者を従事させる場合に専属産業医の選任を必要とする業務でないのはどれか。

1. 異常気圧下における業務
2. スチレンを扱う業務
3. 坑内における業務
4. 塩酸を取り扱う業務

A203. 「労働者の心の健康の保持増進のための指針」において、産業医の役割として示されていないのはどれか。

1. 教育研修の企画
2. 心の健康づくり計画の策定に対する助言・指導
3. 心の健康問題により休業した労働者の復職可否の決定
4. 事業者に就業上の配慮に関する意見を述べること

A204. 第1種有機溶剤はどれか。

1. 1,2-ジクロロエタン
2. 1,2-ジクロロプロパン
3. 1,2-ジクロルエチレン
4. 1,2-ジクロルベンゼン

A205. 空気感染をしないのはどれか。

1. 結核
2. 水痘
3. 風疹
4. 麻疹

A206. 有機溶剤作業主任者の業務として、誤っているのはどれか。

1. 特殊健康診断の実施をたすけ、その結果をまとめ、それに対する対策を行う
2. 作業に従事する労働者が有機溶剤により汚染されないよう作業の方法を決定する
3. タンクの内部における有機溶剤業務において、一定の労働災害防止措置が講じられていることを確認する
4. 局所排気装置を1月を超えない期間ごとに点検する

A207. 法定の特殊健康診断でないのはどれか。

1. じん肺健康診断
2. 高気圧作業健康診断
3. 騒音健康診断
4. 電離放射線健康診断

A208. ILOの「労働者の健康サーベイランスのための倫理技術ガイドライン」に示されている労働者の就業適性についての基本的な考え方に該当しないのはどれか。

1. 健康障害による機能障害を過大評価してはならない
2. 労働者の適応力を過小評価してはならない

3. 公平性を高めるために疾病別の適性基準を設定すべきである
4. 就業適性の判断はその時点での特定の仕事に対する適性に限られる

A209. 衛生管理者の職務に含まれないのはどれか。

1. 労働者の負傷及び疾病、それによる死亡の統計
2. 健康に異常のある者の発見及び処置
3. 作業条件、施設等の衛生上の改善
4. 労働衛生保護具の使用状況の監視

A210. 二次健康診断等給付の健診項目として誤っているのはどれか。

1. 総コレステロール、HDLコレステロール、LDLコレステロール
2. 空腹時血糖値検査
3. 負荷心電図検査または心エコー検査
4. 頸部エコー検査

A3. A301 から A310 の括弧に入る適切な語句を解答欄に記入しなさい。

A301. 現在 IARC は 1,2-ジクロロプロパンの発がん性分類を()としている。

A302. これは()を示す。



A303. 妊産婦が健康診査を受けるために必要な時間を確保することは、()法により事業者が義務づけられている。

A304. 産業保健推進センター及び産業保健推進連絡事務所に代わり、平成 26 年度に 47 都道府県に () が設置された。

A305. 石綿健康診断結果の保存期間は () 年である。

A306. トルエンの代謝を示す。

トルエン→ベンジルアルコール→ベンズアルデヒド→()→馬尿酸

A307. 「心理的負荷による精神障害の認定基準」では、労働者が発病日から起算した直前の 1 か月間におおむね () 時間を超える時間外労働を行った場合、それは「極度の長時間労働」として「特別な出来事」に該当するものとし、精神障害を発病させるおそれのある程度の強い業務による心理的負荷があったとみなすことになっている。

(次頁へ)

A308. () 法により、産前は、申請すれば休業が認められることが定められている。

A309. 事業者は、常時 50 人以上の労働者を使用するに至った日から () 日以内に産業医を必ず選任しなければならない。

A310. 第 66 条の 8 の規定に基づく長時間労働者を対象とする面接指導 及び第 66 条の 10 の規定に基づく高ストレス者を対象とする面接指導において、事業者は、聴取した医師の意見等を記載した面接指導の結果の記録を作成し、これを () 年間以上保存しなければいけない。

B1問題

B11 か B12 のいずれか 1 問を選び、解答を解答欄に記入しなさい。

B11. 作業関連疾患とはどのようなものか。例を挙げて、200 字程度で説明しなさい。

B12. IARC の発がん性リスク分類を 200 字程度で説明しなさい。

B2問題

B21 か B22 のいずれか 1 問を選び、解答を解答欄に記入しなさい。

B21. リスクアセスメントにおけるコントロールバンディングについて概説し、その課題について説明しなさい。計 200 字程度とすること。

B22. トータル・ヘルスプロモーション・プランにおけるメンタルヘルスケアとストレスチェック制度の類似点、相違点を 200 字程度で説明しなさい。

B3問題

B31 か B32 のいずれか 1 問を選び、解答を解答欄に記入しなさい。

B31. 以下の図は、Co と Ni の合金である超高合金を扱う作業者についての呼吸器疾患に関する研究をまとめた論文に掲載されている。この図から読み取ることができることを 200 字程度で説明しなさい。

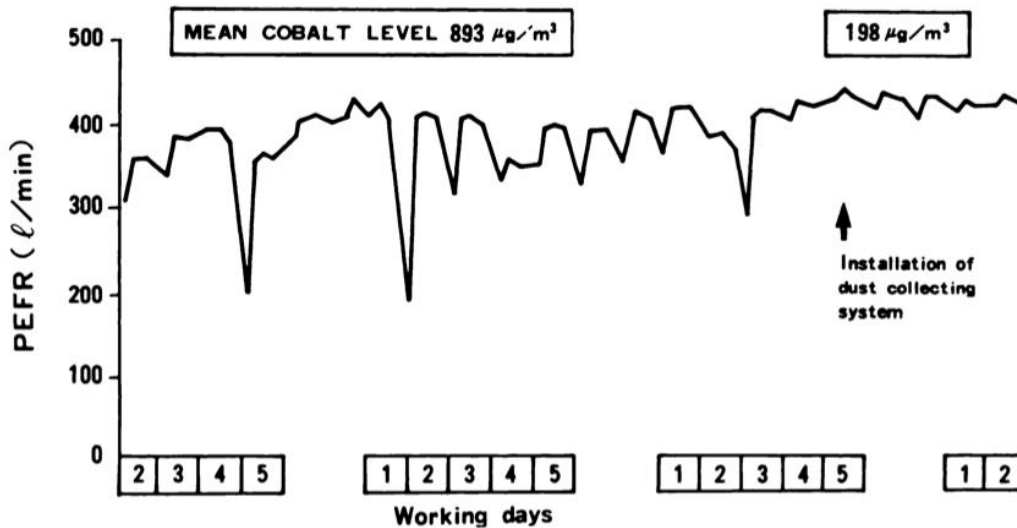


FIGURE 1. Peak flow diary recorded at 8 AM, 12, and 9 PM. Recurrent nocturnal asthma evident on work day, attacks absent on holidays. No attack occurred after installation of exhaust ventilator when the mean cobalt level decreased from 893 to 198 $\mu\text{g}/\text{m}^3$.

B32. 喫煙者(曝露群)5,000人、非喫煙者(非曝露群)10,000人を10年間追跡したところ、喫煙者の非喫煙者に対する肺がん発症に関する相対危険度(RR)は4倍であった。

1. 曝露群の発症率 I_e 、非曝露群の発症率 I_u 、集団中の曝露群の割合 p を使って、集団寄与危険割合(PAF、集団全体のうち真に曝露によって発生した疾患の割合で、曝露の除去により集団全体で減らせる疾患発生の割合を示す)を数式で示しなさい。
2. 集団寄与危険割合を、RR を用いて数式で示しなさい。
3. このコホート調査における集団寄与危険割合は何%か。

C1 問題

C11 か C12 のいずれか 1 問を選び、解答を解答欄に記入しなさい。

- C11. 下の図は、ある製造工場の塗装工程において、高い位置にあるレールに、製品を吊すためのハンガーを吊し、そのハンガーに製品を吊す作業の様子を示したものである。この作業態様の問題点と改善の方法について、300 字程度で説明しなさい。



- C12. あなたが専属産業医として勤務する A 社 B 工場(従業員 1,800 名)において、化学物質を扱う部門から健康管理部門に、この 3 年間で 30~50 歳の社員 4 人に皮膚がんが発症しているとの報告があった。健康管理部門で改めて 3 年間の皮膚がんの発症について調べたところ、更に当該部門で 1 例の発症が確認された。今後産業医として実施すべき対応について、300 字程度で説明しなさい。

C2 問題

C21 か C22 のいずれか 1 問を選び、解答を解答欄に記入しなさい。

C21. あなたが産業医をしている事業所において、定年延長し、機械工として働いている 64 歳男性から、夏季は高温作業を外して欲しいと相談があった。産業医として、どのような点に留意するか。300 字程度で記述しなさい。

C22. あなたが嘱託産業医をしている事業所(ガソリンスタンド)において、健康診断で、高血圧(収縮期 182/ 拡張期圧 110)のため、要治療と判定された従業員がいる。この従業員は、タンクローリー車の運転業務に従事している。すぐに医療機関を受診するように本人に連絡したが、「血圧の薬は、一度飲み始めると一生飲み続けなければならないから飲みたくない。」、「あの健診機関で血圧測定を受けるといつも高い。」と言って受診してくれない。産業医として、どのように対処するか。300 字程度で記述しなさい。

C3 問題

C31 か C32 のいずれか 1 問を選び、解答を解答欄に記入しなさい。

C31. あなたは従業員 50 名の特別養護老人ホームの嘱託産業医である。このホームは、2 階が入居者の居住施設、1 階がリハビリ施設になっている。最近、療養型病院より当該老人ホームに入居した利用者がいた。2 階は全部で 14 部屋あり、そのうちの 1 室の 4 人部屋 に入居した。前医より尋常性天疱瘡の診断を受けステロイドを内服していた。転院後、それまでみられていた全身の落屑性紅斑に加えて、腹部に角質の肥厚および鱗屑がみられ、近医皮膚科を受診したところ、角化型疥癬の診断を受けた。同時期に介護職員 2 名から皮膚のそう痒感、丘疹があるとの訴えがあった。あなたはどのような対策をとるか。300 字程度で述べなさい。

C32. あなたは 4 月より A 社本社の総括産業医となった。A 社は主に社員食堂における調理等を請け負う事業を行っている。同年 6 月初旬、昼の 12 時 30 分頃、B 社の社員食堂の食器洗浄室で食器洗浄作業を行っていた A 社従業員 8 名が、救急車等で病院へ運ばれた。
当日午前 10 時頃、従業員の一人が最初に食器洗浄室に入り、いつも通りに、冷

房機、換気設備、ガス湯沸器、食器洗浄機のスイッチを入れた。午前11時頃、多くの従業員は同室内が暑いと感じ始めた。お昼過ぎに食堂のレジ担当者が食器洗浄室をのぞくと、何人もが倒れており、病院に搬送された。受診時、酸欠および一酸化炭素中毒の症状は見られなかった。

翌日 A 社の衛生管理者が確認したところ、冷房機のスイッチが「送風」になっており、冷房は機能していなかった。後日、被災当日と同様の作業において、酸素濃度、室温等を計測したところ、湿度 85%~90%、酸素濃度 21%、一酸化炭素濃度 1ppm、室温 22℃(換気設備と冷房機が機能した場合。ただし、乾燥機の前は 32℃。)で、換気だけで冷房が機能していない場合は 36℃であった。あなたは産業医として、再発防止策について、どのような助言をするか。300 字程度で述べなさい。

出題については、前述のとおり例年同様、A1 基礎的知識を問う問題、A2 与えられたテーマについてどのように問題解決をしていくか、討議でどのように意見をまとめていくかを目的とした問題、B 産業医の専門的立場から組織の人たちにわかりやすく説明する能力を問う問題で構成されました。

A1 問題では、多くの試験官から期待するレベルに満たない解答が多かったという意見が出ました。総論的な内容は答えられるが、より各論的な内容となると答えられないこと、断片的な知識しかなく系統立てて説明できないこと、などの傾向がみられました。それぞれの解答は間違いではありませんが日頃の産業医業務では、幅広い視野で物事をとらえ、あらゆる可能性を検討し、対応方針を決定するプロセスが必要です。断片的な知識だけでは、このプロセスが成り立ちません。

試験でも実務でも、解答を出した際に、その答えが合っているか間違っているかだけではなく、他の可能性をどれだけ検討したかが重要です。あらゆる可能性を抜け漏れなく挙げるために、系統立てて考える習慣を身につけることが望まれます。

A2 問題は、前述のような問題解決のためにプロセスを審査しました。一部の受験者からは 3. の遺伝子検査について、まだ日本の事業場では浸透していないため、設問課題として適切かどうかという感想も寄せられました。採点は、遺伝子検査導入の有無に関する結論を審査したのではなく、どのような過程でその解答を導きだしたかを審査しています。実務でも、テキストに掲載されていないような事象に多く遭遇しているはずですから、試験であることを意識しすぎて模範解答を探すことが目的とならないよう、問題に取り組んでいただくとよいでしょう。

B 問題は、各自の発表だけでなく、それぞれの場面設定の登場人物になって質疑応答に参加している様子も審査の対象となっています。問題設定の事業場規模、業種、場面をよく読み取り、解答することが求められます。日頃産業医としての意見を述べるだけでなく、会社側、従業員側の考えや心情をくみ取る姿勢が反映されるため、机上の勉強だけではなく、実務を通して勉強することを期待します。

最後に、研修手帳をもとにした面接試験についてですが、事業場での実務を通してどのようなことを学べたのか、担当事業場にはどんな課題であるか、うまく対応できたこと、まだ対応できていないことなど、職場の状況をありのままに説明いただいた方が試験官にも伝わりやすいでしょう。試験であることを意識せず、現場でどんな風に試行錯誤しているのか説明いただくとよいと思います。日頃から、担当事業場の課題を整理し関係者にわかりやすく説明する、職場から寄せられた相談に対し医学的な裏付けを踏まえて的確な説明を行う、さらには従業員からの相談の背景をくみ取り産業医としてどのように対応すべきかをその都度検討する、という姿勢で業務を行っていれば、自ずと専門医に必要な知識や経験は身につけているはずです。なお、産業医として関わった事業場の業種により、有害業務の多い少ないなどの経験の差はあると思いますが、どのような業種を担当したかがすべてではありません。先にも述べたとおり、実務では初めて遭遇する問題に対する対応

力が問われます。現在、有害業務のない職場を担当していても、いつ何時そのような事業場を担当することになるかわかりません。経験がないから対応できないというのではなく、新たに有害業務職場を担当したら、どのように実務をこなすのか、この先生だったら安心して任せられるという知識と取り組み姿勢が問われています。

産業医業務は幅広く終わりがありません。これから専門医試験に臨まれる方も、今回専門医に合格された方も、新たな課題に取り組む姿勢を常に意識して、勉強と実務に励んでいただきたいと思います。

A 1 問題

1. 業務上疾病の範囲とその発生動向について述べなさい。
2. 派遣中の労働者に関する労働安全衛生法および関連法規において、健康管理に関して派遣先事業主に適用される項目を述べなさい。
3. 建築物の解体作業に関連する健康障害の防止対策について述べなさい。
4. 製造現場で初めて職場巡視を行う場合、どのような点に着目するか述べなさい。
5. 労働衛生機関を選定し、利用するにあたり、産業医として留意する点を述べなさい。
6. 小規模事業場の労働衛生管理の特徴と課題について述べなさい。
7. 海外派遣労働者の健康管理について述べなさい。
8. 職場の熱中症の予防対策について述べなさい。

A 2 問題

1.

あなたは精密機器製造業の会社の統括産業医です。社員数は日本全国で 2 万人おり、事業所数は大小合わせて 100 か所以上あります。

50 人以上の事業所には産業医が選任されていますが、あまり機能していない事業所が多いのが現状です。中には産業医、保健師が常勤でいる事業所もあり、活動内容には事業所により違いがあります。

社員の健康診断は地元の約 30 か所の病院、健診機関などで行っており、健診項目、基準値、判定区分に大幅な違いがあって、社内で問題となりつつあります。

また、転勤した場合の健診データの継続性、健康情報の申し送りについても考慮する必要があるのではないかという意見が出てきました。

今後の健康管理の在り方について議論してください。

2. あなたは、都市部の外資系スーパーマーケットの 1 店舗（従業員数 100 名）の嘱託産業医です。

商品購入後に配送を希望するデリバリーのニーズが高いため、デリバリー部門の売上が最近上昇傾向にありました。

本国からの経費節減の指示により、今までアウトソーシングしていた梱包や配送車への荷積み業務等を、内部で行うことにしたところ、デリバリー部門（10名）の労働時間が急増し、翌月の過重労働面談では10人中9人が100時間以上の残業がある状況となり、午前4時に出社して、午前0時に退社しているような従業員もいました。

過重労働面談にて7人と面談した際に、「筋肉痛が治らない」「仕事中いつも眠い」「退職したいが、再就職が難しいので仕方なく働いている」などの意見が聞かれ、過酷な労働時間を黙認する店長や本社管理部門への恨み言が聞かれました。

産業医として取るべき対策について議論して下さい。

3.

あなたは、従業員1200人の大手金属加工メーカーの専属産業医です。この工場では、トリクロロエチレンを用いた加工品の洗浄作業があり、局所排気設備はあるものの、繁忙期には、作業環境測定で第Ⅱ管理区分となることがあります。

春に実施した特殊健康診断において同工程の複数の作業者が尿中代謝物測定で高濃度になった者が数名いることから、安全衛生委員会でその結果とトリクロロエチレンの有害性について説明するとともに、

「トリクロロエチレンへの職業性曝露によって、トリクロロエチレン過敏症候群と呼ばれる、Stevens-Johnson症候群様の強い症状を有する感作性皮膚炎が発生したとの疫学研究の報告があり、その感受性要因には体質（HLA遺伝子型。日本人では100人中約2人が高リスク群）が関与しているとも報告されている。十分な安全衛生対策を確認してほしい」

と発言したところ、「体質によって雇いやすさが異なるなら、体質の検査を行って、雇いにくい人を優先的に配置してはどうか」との意見が出されました。この意見に対し、どのような回答するのか議論して下さい。

B問題

1.

あなたは従業員数100名の立ち仕事を中心とする食品製造業の嘱託産業医です。43歳の男性が中途入社を希望したため人事担当者が面接を行ったところ、「今まで病気にかかったことがない」と話したため、内定通知を手渡しました。ところが、雇い入れ時健康診断を受けてもらったところ、尿糖2+、空腹時血糖値250mg/dlを認め、起立性低血圧と診断され

ました。そこで、人事担当者があなたのところに就労について相談しに来ました。このときの返事を 10 分間で説明してください。

2.

あなたは従業員 1000 人の IT 関連企業の常勤の産業医として新しく赴任します。産業医以外の産業保健スタッフは常勤保健師 1 名のみです。

総務部長より、近年この企業では精神疾患による休業者が多いことが問題になっているので、対策をして欲しいとの依頼がありました。

あなたがここ数年の精神疾患による休業者の状況を調べてみると、繰り返し精神疾患で休業しているものが多く、職場復帰後 1 年以内に再休業となっている者が約 60% を占めていました。

今後行うメンタルヘルス対策について、衛生委員会において 10 分間で説明して下さい。

3.

あなたは従業員数 150 名の特別養護老人ホームの嘱託産業医です。

月に 1 回の訪問で安全衛生委員会に出席し、巡視を行い、指導が必要な職員の面談などをこなしています。

以前より腰痛を訴える従業員が多いため、調査を行ったところ、ほとんどすべての従業員が腰痛症の既往、あるいは現病歴をもっていました。治療についてのアンケートでは約 7 割が接骨院やカイロプラクティックに通っているとのことでした。

また、この事業所では正社員のほかにパート社員、さらに外国人介護職員が働いており、人間関係も複雑になって精神面での影響も出ているようです。

この度あなたは職場における腰痛対策について考えてほしいという要請を受け、安全衛生委員会で提言を行うことになりました。10 分間で説明してください。

4.

あなたは、従業員数 70 人の電子機器メーカーの嘱託産業医です。この事業所では、幅広いユーザーからのリクエストに応えるため、新規・既存を合わせると 50 種類以上の化学物質が使用されており、そのうちの半数はこれまでの法令による個別規制（特化則、有機則等）の対象外物質です。

開発・生産両部門の部長から、「安全衛生法の改正で義務化されたことから、化学物質のリスクアセスメントの手順に沿って社内のマニュアルを改訂したものの、コントロールバンディングを用いたアセスメントでは、これらの物質のアセスメント結果の大部分が、『封じ込め』か『専門家への相談』と判定されてしまい、実効性が低い。現場をよく知る産業医の立場で、当社の化学物質リスクアセスメントの手順について提案して欲しい」との依頼がありました。

開発および生産部門のメンバー全員が集まるミーティングの冒頭で、10 分間のプレゼンテーションを行って下さい。

5.

あなたは、機械部品工場（従業員数 400 名、ライン 300 名／管理部門 100 名、平均年齢 43 歳、男女比=9:1）の嘱託産業医です。この工場には保健師が 1 名勤務しています。

定期健診での有所見率は、肥満 35.0%、血圧 20.2%、血中脂質検査 48.8%、血糖検査 12.4% です。特定保健指導もしていますが、社内の自販機では清涼飲料水が沢山売れ、社員食堂のメニューは 900kcal の定食とカレー、麺類のみです。最近、高血圧を放置していた社員が業務中に脳出血を発病し、救急車で搬送されるという事態が起きました。これを受けて、会社が行う生活習慣病対策について相談を受けました。考えられる対策について安全衛生委員会にて 10 分間の説明を行ってください。

6.

あなたは、化粧品販売会社（従業員数 800 名）の嘱託産業医です。女性販売員が多く（男女比 2 : 8、平均年齢 33 歳）で、百貨店やデパートなどの売り場にこの企業の 1~10 数名の販売員が常駐する分散事業所が多い状態です。

社員の喫煙率は男性 50%、女性 25%、職場では非喫煙者から作業能率の低下や衣服への匂いの付着などの訴えがありました。ほとんどの職場の喫煙環境は、分煙となっています。

人事部長から、会社が行う喫煙対策について、相談を受けました。本社衛生委員会で 10 分間の説明を行ってください。

7. あなたはある会社の嘱託産業医をしています。過重労働が多く多くの社員に認められ、毎月 100 時間を超えることが 5 ヶ月も続く社員もいるような状態でした。

しかし、人事部長は「法で定められた産業医面接をしっかりと実施しているのだから、問題無かろう。」という態度で、会社として「受注が好調で時間外労働が多くあるのは良いことだ。ウチの会社は時間外賃金はすべてきちり払っているのだから、社員にとっても願ったりである。」とむしろ自慢げです。

このような状況下で、社員に脳血管疾患・心疾患等が発病した場合の会社としてのリスクを人事部長に 10 分間で説明してください。

8.

あなたは従業員約 500 人のサービス業（給食センター、レストラン厨房業務等）の嘱託産業医です。

従業員の約 4 割が女性です。人事部長から、「わが社の女性従業員は、男性従業員に比べ勤続年数が短いのだが、今後は女性が仕事を長く続けられるようにすることが会社の課題

であると考えている。産業保健の観点からは、どのようなことが課題と考えられるか、またどのような改善策が考えられるか」と相談がありました。

人事部長に対し、10分間で説明してください。